

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		国際交流推進事業		担当課	市民協働推進課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成元年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	国際交流の推進		市民協働	事業協力
予算科目コード		01-020703-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市青少年海外派遣実施要綱 外国人のための語学支援者登録制度要綱	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
もりや工業団地にドイツとアメリカに縁のある企業が進出したことをきっかけに、ドイツ・マインブルク市（1990年）、アメリカ・グリーリー市（1993年）と国際姉妹都市を提携したことから、市民レベルでの訪問・交流が始まった。	姉妹都市交流として、国際姉妹都市からの市民・高校生等の訪問を受け入れ、市民との交流の機会を設けて市民レベルでの交流を推進する。国際交流協会と連携して日本文化体験、市民宅へのホームステイ、市内学校訪問等を行う。 青少年海外派遣として、夏休み期間に姉妹都市に青少年を派遣し、ホームステイを通じて市の国際交流事業の担い手育成を行うとともに、グローバル社会に対応できる人材育成を目的とする。ドイツ・マインブルク市、アメリカ・グリーリー市の2市を1年交代で訪問する。 国際交流協会と連携し、市民と行政がそれぞれの特性を生かした事業を行う。地域に暮らす在留外国人のための日本語教室、国際理解を推進するための協会事業と連携し、多文化共生社会実現への取組を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民の国際意識の醸成を図り、国際姉妹都市との友好関係が市民を中心とした交流に発展させるため支援する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、異文化を尊重・理解して、外国人と接することができるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
青少年海外派遣事業や国際交流員による事業等の国際交流関連事業に参加し、国際意識を持ち始めた市民の活躍する場となる事業が少ないため、気軽に参画できるような機会の創出が必要である。	平成30年度に実施予定の市内中学校におけるグリーリー市ノーザンコロラド大学生の教育実習生の受け入れに際し、市民の積極的な参画を促す。 10月：受入協力のための庁内調整 2～3月：ノーザンコロラド大学、市国際交流協会との調整 ※平成30年度対応 4月：受入調整 5月：受入実施支援
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
例年実施している事業に加え、来年度に市国際交流協会主導により実施予定のグリーリー市ノーザンコロラド大学生の教育実習生の受け入れに際し、今まで事業に参画できなかった市民の積極的な参画を促す。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☒ 削減	姉妹都市との協議に基づき経費の見直しを行うことで、効果は継続しつつも経費の削減を行う。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
・国際交流関係事業の開催日数等を考慮すると、これ以上の参加者数の増は見込めないことから、数値的目標値は維持しつつも、青少年海外派遣事業や国際交流員を活用した事業で育成した市民が市の国際交流推進に関する事業で参画できるようにする。 ・平成27年度に青少年海外派遣基金残高がなくなり基金を廃止したが、事業継続のために参加者の受益者負担を再考し、平成29年度から派遣費用の市負担分の上限を10万円に改正し、市の財政負担の軽減を図る。	・姉妹都市の学生訪問団来市時に守谷高校において交流を行い、異文化理解や英語によるコミュニケーション能力の向上のための機会を提供した。また、青少年海外派遣団員とその保護者に対し、派遣事業参加後も継続的に姉妹都市交流の担い手して活動してもらえよう、当該事業を通じてフォローアップを行い、ホームステイ受け入れ等の国際交流関連事業に積極的に関わる市民層の拡大を図った。 ・平成29年度実施の海外派遣事業から事業の市負担分の上限を10万円に改正し、財政負担の軽減を図った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
国際交流関連事業の延べ参加者数（人）	1, 219. 00	1, 148. 00	1, 627. 00	1, 650. 00	1, 150. 00
	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	従来の事業に加え、県立守谷高校生徒とグリーリー市学生訪問団との交流授業を新たに実施したことにより成果が向上した。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	国際交流関連事業の開催日数等を考慮すると、新規事業の創出が難しいことから、今後も大幅な参加者数の増は見込めない。今後は、一人でも多くの市民の参加が得られるよう既存事業の充実を図る。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	761	356	4, 088	4, 055	4, 100
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	761	356	2, 396	2, 622	2, 600
	一般財源	0	0	1, 692	1, 433	1, 500
正職員人工数（時間数）		0. 00	413. 00	948. 00	0. 00	0. 00
正職員人件費		0	1, 693	3, 887	0	0
トータルコスト		761	2, 049	7, 975	4, 055	4, 100

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		国際交流員事業		担当課 市民協働推進課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間 平成10年度～
	施策	生涯学習の推進		種別 任意の事務
	基本事業	国際交流の推進		市民協働 事業協力
予算科目コード		01-020703-03 単独	根拠法令・条例等	守谷市国際交流員任用規則

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
ドイツ・マインブルク市及びアメリカ・グリーリー市との国際姉妹都市締結に伴い、国際姉妹都市関係の強化、地域レベルでの国際化の推進を目的とし、平成10年からJETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）による国際交流員の任用を開始した。	（一財）自治体国際化協会のJETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）活用により、市の国際交流活動に従事する国際交流員（CIR）1名を任用し、国際交流事業の企画立案及び実施協力、海外からの訪問客の接遇、地域住民の異文化交流活動への協力、小・中学校における特別活動・課外活動への協力等を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民に対し、広くドイツ文化に触れる機会を提供し、国際姉妹都市との円滑な連携を図る。また、市民の異文化理解のための活動や在住外国人への行政サービスの補助を行うなど、多様化する市民のニーズに対応する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、異文化を尊重・理解して、外国人と接することができるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
国際交流員が実施する語学講座などの事業は、参加希望者が多く調整が必要な状態となっている。	従来実施している事業に加え、市内子育て施設等への派遣を行う等、新しい形式での講座開催を行う。また、一つの講座の開催回数を増やし、市民の参加意欲に応える事業を実施する。 4～6月：中級ドイツ語講座 4～6月：ブッククラブ 6月：中級ドイツ語講座 6～8月：青少年海外派遣研修 7～8月：上級ドイツ語講座 9～12月：初中級ドイツ語講座 11月：駅前子育て広場「ザンクト・マーティン」イベント 12月：クリスマスクッキー作り教室 1月：中級ドイツ語講座
改善内容（課題解決に向けた解決策）	1月：土塔中央保育所「ハロー・ドイツ」 3月：土塔中央保育所交流事業
参加希望者が多い事業に関しては、開催回数の増により対応する。また、従来の事業に加え、新たな試みとして市内保育所における講座を開催し、幼児向けの事業の展開を図る。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	事業費は国際交流員に係る報酬、負担金等が主であるため、現状を維持する。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
国際交流員のみで実施する事業のほか、市職員や国際交流協会会員が補助することで、より多くの市民が参加できる事業や、多様なニーズに応じることができるような事業を展開し、内容の充実を図る。	守谷駅東口「守谷駅前親子ふれあいルーム」での「ザンクト・マーティン（ランタン作り）」イベント、保健センターでの親子で参加可能なクリスマスクッキー作り教室、市内公立保育所における「ハロー・ドイツ」などの開催により、普段は参加することが難しい乳幼児やその保護者に異文化体験の機会を提供した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
国際交流員が実施した講座等の実施回数（回）	49.00	81.00	71.00	75.00	80.00
国際交流員が実施した講座等の延べ参加者数（人）	1,152.00	1,007.00	1,341.00	1,350.00	1,040.00
成果の動向（→その理由）					
■向上 □横ばい □低下		受講希望者が多いドイツ語講座は1クラスで実施する予定だったものを、2クラス開講することで高まるドイツ語学習ニーズに対応したため、成果が向上した。 そのほか、多くの参加希望者が期待できる内容で講座を実施したことにより事業1回あたりの参加者数が増加した。			
今後の事業の方向性（→その理由）					
□拡大 □縮小 ■維持 □改善・効率化 □統合 □廃止・終了		今後も保育所での訪問講座実施や、子育て中の世代も参加できる事業等を継続的にを行い、幅広い市民層に異文化理解の機会を提供する。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	5,456	4,555	4,936	5,020	5,500
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	5,456	4,555	4,936	5,020	5,020
	一般財源	0	0	0	0	480
正職員人工数（時間数）		0.00	1,169.00	1,314.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	4,793	5,387	0	0
トータルコスト		5,456	9,348	10,323	5,020	5,500

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		国際交流研修センター維持管理事業		担当課	市民協働推進課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成 2年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	国際交流の推進		市民協働	その他
予算科目コード		01-020703-05 単独	根拠法令・条例等	守谷市国際交流研修センター設置及び管理に関する条例 守谷市国際交流研修センター管理運営規則	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成2年度にアサヒビール（株）茨城工場竣工を記念し、同社から寄贈された。	国際交流研修センター設備の点検・清掃委託・光熱水費の支払い等、日常の維持管理業務を行う。 また、毎週火曜日と年末年始を除く開館日に、シルバー人材センター委託による管理人を置くことで、利用者への対応等の施設管理を行う。 さらに、施設の老朽化が進んでいることから、計画的な修繕を実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
施設の適切な維持管理により、国際交流活動及び社会教育活動の拠点として本施設を機能させ、市民の国際交流活動及び社会教育活動の充実及び発展に寄与する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、異文化を尊重・理解して、外国人と接することができるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
①平成27年度にシロアリによる食害被害にあった施設の予防保全として、施設の床下全体にシロアリ防除処理をする必要がある。 ②大ホールの高所照明が器具の老朽化により、電球の摩耗が激しく、球切れが頻繁に起こるようになっている。また、電球の交換作業は高所作業であり専門業者による作業が必要なため、即自対応ができず、年2回程度の交換作業の間は、球切れ状態が続くこともあり、施設を使用する上で、必要な照度を確保するため様々な補助照明を使用しなくてはならない。	【具体的内容】 ①施設の床下点検口を活用し、施設床下の土壌にシロアリ防除処理を実施した。 ②平成30年度に大ホールの天井照明をLED化し、光源の長寿命化と照度を一定水準以上に保つことで施設の利便性を高める。 【スケジュール】 ①11月：シロアリ防除処理の準備 12月4日～10日：シロアリ防除処理 12月～1月：報告書・完了検査等の事務処理 2月：業務委託料支払 ②天井照明のLED化 11月：予算編成のための照明設備の調査・予算計上 ※次年度対応 4～5月：入札準備 6月：入札執行 7～8月：工事 9月：利用者及び施設管理人への使用方法の周知
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
①シロアリ防除処理が可能な業者を選定し、施設利用者と調整してシロアリ防除処理を実施する。 ②天井照明をLED照明に更新する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	今年度で防除処理が終了するため、本来は削減の方向となるが、施設の老朽化に伴い不具合の発生頻度が高くなっている室内照明の交換工事（LED化）を実施するため、単年度ではあるがコストが増加する。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
施設の維持管理のための必要最小限のコストでの運営であるため、現状を維持するが、築後25年以上が経過し、施設の老朽化による修繕箇所が増加傾向にあるため、今後は定期的な点検の実施と、計画的な修繕が必要である。	・平成28年度に設置した床下点検口を活用し、床下のシロアリ防除処理（土壌処理及び木部処理）を実施した。 ・大ホールの天井照明については、現在の器具での照度や現在の使用状況における必要照度の調査を実施した。 ※平成30年度にLED照明灯の設置工事を実施予定。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
年間延べ利用者数（人）	11,636.00	12,189.00	11,304.00	11,000.00	12,189.00
年間貸し出し件数（件）	494.00	476.00	495.00	500.00	600.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	施設の利用件数については、ほぼ横ばいであるが、それに対する利用者数の減は、利用する団体の構成人数に左右されることから一概に低下していると捕らえるべきではないと考える。 施設の規模を考慮すると今後も横ばい状態が継続するものとする。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	多くの市民が利用している施設であり、今後も多くの市民に利用いただけるようセンターの適正な維持管理を実施していくが、築後25年以上が経過しているため、施設の予防保全のための定期的・計画的な修繕が必要である。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	14,855	5,721	6,107	6,890	5,800
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	315	244	243	267	200
	一般財源	14,540	5,477	5,864	6,623	5,600
正職員人工数（時間数）		0.00	219.00	96.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	898	394	0	0
トータルコスト		14,855	6,619	6,501	6,890	5,800